

歴史文化学科歴史学専攻 カリキュラム・マップ (2018年以前入学生)

| 科 目 名 | 授業形態 | 配当年度 | 単位 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマ・ポリシーの番号 | | | | |
|------------|---|-------|----|--|---|--------------------------|---|---|---|---|
| | | | | | | ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要 | | | | |
| | | | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| ディプロマ・ポリシー | 歴史学専攻では、以下の能力を身につけた人材を養成します。まず歴史学に関する知識を背景に、自らの属する社会の成り立ちを理解する力をもつとともに、異文化に対する洞察力をもつこと。これによって、現代日本に生きる者としてのアイデンティティを構築することができます。次に、史料を調査・読解して知識を獲得し、それに基づいて論理的に思考すること(思考力)、思考を言語化して正確に伝え、討論を通じて議論を発展させること(コミュニケーション能力)、解決すべき課題を自ら打ち立てること(構想力)、自分の知識と主張を他人に理解できるように構成・提示して発信すること(表現力)。これらは、社会の中で主体的に生きていくための基礎となります。さらに、歴史教育や文化財保護などに携わることのできる専門的な技能を獲得すること。これによって、専門的な分野で社会に貢献することが可能になります。これらの能力を身につけた人に学士(歴史学)を授与します。 | | | | ①論理的に思考する力 ②歴史学に関する基礎と応用の知識 ③調査・収集・分析・理解する力 ④構想・表現・伝達する力 ⑤アイデンティティを構築し、社会に貢献する力 | | | | | |
| 日本史要説 | 講義 | 1 | 2 | 日本の歴史を、主に近代・現代を中心に、いくつかのテーマに即して講義する。これは現代社会を理解するために歴史を学ぶという考えに基づくものであり、これによって全時代的な日本史の理解を図る。 | 日本史の基本的な歴史の流れや見方などを理解するとともに、歴史学の意義やおもしろさを学ぶこと。 | ○ | ◎ | | | |
| 東洋史要説 | 講義 | 1 | 2 | 東アジア世界の成立というテーマに即して、東アジア各地の国や地域が全体として結びつきを深め、一体となって動いていく様子を理解できるようにすることを図る。 | 東アジア史の基礎知識を身につけ、通史的な概観を得ること。 | ○ | ◎ | | | |
| 西洋史要説 | 講義 | 1 | 2 | 欧米列強とアジアとの関わりを中心として、欧米列強の世界進出を認識し、現代の緊密な国際関係の端緒とその展開を理解できるようにする。 | 近代以降の世界の一体化のプロセスを認識し、現代社会との関わりにおいて理解を深めること。 | ○ | ◎ | | | |
| 歴史学基礎演習1 | 演習 | 1 | 2 | 日本史の分野を対象に、文献の読み方(内容のまとめ方)、史料の読み方などについて、基礎的なトレーニングを行う。 | 歴史学専攻生として学生生活をスタートするにあたり、必要とされる基礎的な力が育成されること。 | | | ◎ | ◎ | |
| 歴史学基礎演習2 | 演習 | 1 | 2 | E. H. カーク『歴史とは何か』をテキストとして、内容紹介を行ない、疑問点について討論することで、歴史学を学ぶ上での基礎的なトレーニングを行なう。 | 学術書の読み方、論文の読解力の基礎を身に付け、レジュメの書き方や口頭報告の仕方などを修得すること。 | | | ◎ | ◎ | |
| 歴史学研究入門1 | 演習 | 2 | 2 | 歴史学の個別分野に関する概説書をテキストとして選び、各学生がそれぞれ分担して輪読し、内容の紹介とコメントを報告する。 | 専門分野に関する基礎的な文献を読みこなし、自ら知識を身につけられるようにすること。 | | | ◎ | ◎ | |
| 歴史学研究入門2 | 演習 | 2 | 2 | 前半は日本史の論文を一つ選定して報告してもらい、その内容をめぐって討論する。後半は奈良の歴史についてテーマを決めて調べた結果を報告し、その内容について討論する。 | 歴史学の研究方法や研究動向についての理解を深め、論文の読解力を高めるとともに、研究課題を見出し調査・発表する能力を養うこと。 | | | ◎ | ◎ | |
| 大和近世史の研究1 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 近世後半期の大和の歴史を中心に、「政治と社会と民衆」をメイン・テーマとして講義を行う。 | 本学の位置する大和の近世史についての理解を深めること。 | ◎ | ◎ | | | |
| 大和近世史の研究2 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 戦国末期から江戸時代の奈良町あるいは興福寺・春日社の史料を素材とし、(1)史料論、(2)宗教史、(3)都市論をふまえ、戦国末期から幕末維新期の奈良町の歴史を概説する。 | 近世大和の研究について、どのような史料を読めばいいのかを知り、具体的な史料記述に関する理解を深めること。 | ◎ | ◎ | | | |
| 文化交流史の研究1 | 講義 | 2・3・4 | 2 | ユーラシア大陸の東西を結ぶ交通と交易の発展を概観し、それが東アジア世界に与えた影響について学べるようにする。 | 一国の中で閉じた歴史ではなく、複数の国や地域を含む広い領域内の歴史の動きを捉えること。 | ◎ | ◎ | | | |
| 文化交流史の研究2 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 15世紀に活発となるオランダの商業活動を検討し、その後の同国によるアジア遠征までを検討し、西欧とアジアの交流関係を概観する。更に幕末維新期における、日本の開国に関する国内動向について理解できるようにする。 | 近代西欧人がアジアに向かった背景と理由、更に開国期における日本側の反応・動向について理解すること。 | ◎ | ◎ | | | |
| 日本古代史の研究 | 講義 | 2・3・4 | 2 | DVDや図表などを使いながら、日本古代史(古墳時代・飛鳥時代・奈良時代・平安時代)の概略を分かりやすく説明していくと共に、最近の日本古代史の研究動向や研究方法なども解説していく。 | 講義で解説されたことを踏まえ、各自で調べたり、パソコンでまとめたりできるようにすること。 | ◎ | ◎ | | | |
| 日本中世史の研究 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 室町・戦国社会の成立・展開について、畿内社会に焦点を当て、他地域と対比しながら、武家・寺社権力を中心に検討する。 | 日本中世史の最新の研究と方法について、講義を通じて学ぶこと。 | ◎ | ◎ | | | |
| 日本近世史の研究 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 織豊期から幕末に至る近世日本の社会と文化を理解するため、その時代の様相を端的に示す史料を紹介しながら、社会の変化の様子を見ていくこととする。 | 日本の近世史・宗教史・文化史に関する研究動向をふまえ、近世の通史的な理解を深めること。 | ◎ | ◎ | | | |
| 日本近代史の研究 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 日本近代の地域(都道府県・市町村)と軍隊(師団・聯隊・鎮守府など)との政治的・経済的・社会的関係について、主に奈良県と中心とする近畿地方を具体的なフィールドとして、考察する。 | 日本近代における地域と軍隊との関係について理解すること。 | ◎ | ◎ | | | |
| 古文書学 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 古代・中世の古文書学の基本である様式論を中心としながら、機能論についても言及する。 | 文献史学の基本史料である古文書についての基本知識を身につけるとともに、それを通じて古代中世の政治や社会の概要を理解できるようにすること。 | | ◎ | ○ | | |
| 東洋近世史の研究1 | 講義 | 2・3・4 | 2 | 15～17世紀の東アジア世界の政治的・経済的変動について講義を行なう。具体的には、当時の中国の経済発展と地域間格差、明朝統治機構の衰弱について扱う。 | 専門的な個別研究を学ぶことによって、より高度な知識と研究方法に対する理解を得ること。 | ◎ | ◎ | | | |

| ディプロマ・ポリシー | 歴史学専攻では、以下の能力を身につけた人材を養成します。まず歴史学に関する知識を背景に、自らの属する社会の成り立ちを理解する力をもつとともに、異文化に対する洞察力をもつこと。これによって、現代日本に生きる者としてのアイデンティティを構築することができます。次に、史料を調査・読解して知識を獲得し、それに基づいて論理的に思考すること(思考力)、思考を言語化して正確に伝え、討論を通じて議論を進展させること(コミュニケーション能力)、解決すべき課題を自ら打ち立てること(構想力)、自分の知識と主張を他人に理解できるように構成・提示して発信すること(表現力)。これらは、社会の中で主体的に生きていくための基礎となります。さらに、歴史教育や文化財保護などに携わることのできる専門的な技能を獲得すること。これによって、専門的な分野で社会に貢献することが可能になります。これらの能力を身につけた人に学士(歴史学)を授与します。 | | | | ①論理的に思考する力 ②歴史学に関する基礎と応用の知識 ③調査・収集・分析・理解する力 ④構想・表現・伝達する力 ⑤アイデンティティを構築し、社会に貢献する力 | | | | | | | | | |
|------------|---|------|-------|----|---|---|---|---|---|---|---|--|--|--|
| 科目名 | | 授業形態 | 配当年度 | 単位 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要 | | | | | | | |
| | | | | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | | | |
| 東洋近世史の研究2 | | 講義 | 2・3・4 | 2 | 15～17世紀の東アジア世界の変動について、東洋近世史の研究1から連続した内容で講義を行なう。具体的には、中国の経済発展に伴って周辺地域で起こった変化と、それが東アジア全体の構造変革におよぼした影響を扱う。 | 専門的な個別研究を学ぶことによって、より高度な知識と研究方法に対する理解を得ること。 | ◎ | ◎ | | | | | | |
| 西洋近代史の研究1 | | 講義 | 2・3・4 | 2 | 日本開国を起点として、欧米列強のアジアの国際関係を踏まえ、アジアの植民地大国であったオランダの対日政策を、原史料に基づき検討する。 | 19世紀中葉の欧米列強によるアジア進出、とりわけ開国期の日本問題を中心とした国際関係を理解すること。 | ◎ | ◎ | | | | | | |
| 西洋近代史の研究2 | | 講義 | 2・3・4 | 2 | アメリカ合衆国ペリー司令官による日本開国を起点として、それによるオランダの対日積極外交とその終焉を、原史料に基づき検討する。 | いわゆる“帝国主義”の時代背景を意識しながら、19世紀中葉の日本と欧米列強の関係を理解すること。 | ◎ | ◎ | | | | | | |
| 日本古代史料の講読1 | | 演習 | 2・3 | 2 | 日本古代史料(古墳時代・飛鳥時代・奈良時代・平安時代)の読み方を分かりやすく説明していくと共に、実際に読解しながら問題を発見して行けるようにする。 | 史料を読解しながら、自分なりに日本古代の政治・経済・外交・文化の特徴を発見できること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 日本古代史料の講読2 | | 演習 | 2・3 | 2 | 日本古代史料(古墳時代・飛鳥時代・奈良時代・平安時代)の読み方を分かりやすく説明していくと共に、実際に読解しながら問題を発見して行けるようにする。 | 史料を読解しながら、自分なりに日本古代の政治・経済・外交・文化の特徴を発見できること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 日本中世史料の講読1 | | 演習 | 2・3 | 2 | 鎌倉幕府が編纂した歴史書である『吾妻鏡』をテキストとして、割り当てられた受講者が語句・意味などを調べたレジュメを作成して発表してもらい、それをもとに読み進めていく。 | 日本中世の漢文史料を読み下すとともに、その意味を理解できるようになること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 日本中世史料の講読2 | | 演習 | 2・3 | 2 | 戦国時代の武家の発給文書をテキストとして、割り当てられた受講者が語句・意味などを調べたレジュメを作成して発表してもらい、それをもとに読み進めていく。 | 日本中世の漢文史料を読み下すとともに、その意味を理解できるようになること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 日本近世史料の講読1 | | 演習 | 2・3 | 2 | 近世の史料集を読み、そこに記されている内容を正しく理解するとともに、その事件の背景や近世社会でどのような意味を持っているのか、などについても考察する。 | 日本の近世史料に慣れ親しみ、その読解力を高めるとともに、近世という時代についての理解を深めること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 日本近世史料の講読2 | | 演習 | 2・3 | 2 | 『公事裁許扣帳』(『藤堂藩大和山城奉行記録』)を読み、そこに記されている内容を正しく理解するとともに、その事件の背景や近世社会でどのような意味を持っているのか、などについても考察する。 | 日本の近世史料に慣れ親しみ、その読解力を高めるとともに、近世という時代についての理解を深めること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 日本近代史料の講読1 | | 演習 | 2・3 | 2 | 『葛野郡岡区事務日誌』(明治33年～昭和5年)を読む。史料を読み解くことにより、日本近代社会の形成過程を理解し、近代社会と現在の違いも意識できるようにする。 | 日本近代史料を読解するための基礎力を身に付け、史料の背景にある当該社会の問題についても考えられること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 日本近代史料の講読2 | | 演習 | 2・3 | 2 | 引き続き『葛野郡岡区事務日誌』(明治33年～昭和5年)を読む。 | 日本近代史料を読解するための基礎力を身に付け、史料の背景にある当該社会の問題についても考えられること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 東洋近世史料の講読1 | | 演習 | 2・3 | 2 | 最初に漢文読解の基礎的な訓練を行ない、その後、実際に史籍を会読して、読解力を身につけるようにする。テキストとしては、『明史』列伝から一篇を選ぶ。 | 東洋史を研究する上で基本となる漢文史料が読解できるようになること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 東洋近世史料の講読2 | | 演習 | 2・3 | 2 | 最初に漢文読解の基礎的な訓練を行ない、その後、実際に史籍を会読して、読解力を身につけるようにする。テキストとしては、『明史』列伝から一篇を選ぶ。 | 東洋史を研究する上で基本となる漢文史料が読解できるようになること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 東洋近世史料の講読3 | | 演習 | 2・3 | 2 | 最初に漢文読解の基礎的な訓練を行ない、その後、実際に史籍を会読して、読解力を身につけるようにする。テキストとしては、『明史』列伝から一篇を選ぶ。 | 東洋史を研究する上で基本となる漢文史料が読解できるようになること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 東洋近世史料の講読4 | | 演習 | 2・3 | 2 | 最初に漢文読解の基礎的な訓練を行ない、その後、実際に史籍を会読して、読解力を身につけるようにする。テキストとしては、『明史』列伝から一篇を選ぶ。 | 東洋史を研究する上で基本となる漢文史料が読解できるようになること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 西洋近代史料の講読1 | | 演習 | 2・3 | 2 | スタンダードな英語の歴史概説書から、各自の興味ある項目を読解することで、自らのテーマの基礎を固め、日本の文献とは異なる歴史への視点・アプローチを理解する。 | 日本語で書かれた歴史文献だけではなく、西洋の文献をも扱えるようになること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 西洋近代史料の講読2 | | 演習 | 2・3 | 2 | スタンダードな英語の歴史概説書から、各自の興味ある項目を読解することで、自らのテーマの基礎を固め、日本の文献とは異なる歴史への視点・アプローチを理解する。 | 日本語で書かれた歴史文献だけではなく、西洋の文献をも扱えるようになること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 西洋近代史料の講読3 | | 演習 | 2・3 | 2 | スタンダードな英語の歴史概説書から、各自の興味ある項目を読解することで、自らのテーマの基礎を固め、日本の文献とは異なる歴史への視点・アプローチを理解する。 | 日本語で書かれた歴史文献だけではなく、西洋の文献をも扱えるようになること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |

| ディプロマ・ポリシー | 歴史学専攻では、以下の能力を身につけた人材を養成します。まず歴史学に関する知識を背景に、自らの属する社会の成り立ちを理解する力をもつとともに、異文化に対する洞察力をもつこと。これによって、現代日本に生きる者としてのアイデンティティを構築することができます。次に、史料を調査・読解して知識を獲得し、それに基づいて論理的に思考すること(思考力)、思考を言語化して正確に伝え、討論を通して議論を展開させること(コミュニケーション能力)、解決すべき課題を自ら打ち立てること(構想力)、自分の知識と主張を他人に理解できるように構成・提示して発信すること(表現力)、これらは、社会の中で主体的に生きていくための基礎となります。さらに、歴史教育や文化財保護などに携わることのできる専門的な技能を獲得すること。これによって、専門的な分野で社会に貢献することが可能になります。これらの能力を身につけた人に学士(歴史学)を授与します。 | | | | ①論理的に思考する力 ②歴史学に関する基礎と応用の知識 ③調査・収集・分析・理解する力 ④構想・表現・伝達する力 ⑤アイデンティティを構築し、社会に貢献する力 | | | | | | | | | |
|------------|---|------|------|----|---|---|---|---|---|---|---|--|--|--|
| 科目名 | | 授業形態 | 配当年次 | 単位 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要 | | | | | | | |
| | | | | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | | | |
| 西洋近代史料の講読4 | | 演習 | 2・3 | 2 | スタンダードな英語の歴史概説書から、各自の興味ある項目を読解することで、自らのテーマの基礎を固め、日本の文献とは異なる歴史への視点・アプローチを理解する。 | 日本語で書かれた歴史文献だけではなく、西洋の文献をも扱えるようになること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 近世史料実習1 | | 実習 | 1 | 1 | 近世史料のうち、平易な史料の写真版のコピーを読み、近世のくずし字のうち特に仮名文字をマスターできるよう、トレーニングを行う。 | 近世史料に慣れ親しむとともに、くずし字を読む力を養うこと。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 近世史料実習2 | | 実習 | 1 | 1 | 近世史料の写真版のコピーを読み進め、取り上げる史料の難易度を徐々に引き上げながら、くずし字を読む力を高めるとともに、史料の内容も理解できるよう、トレーニングを重ねる。 | 近世のくずし字を読む力をさらに高めるとともに、史料の内容についての理解も深めること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 近世史料実習3 | | 実習 | 2 | 1 | 地域の近代史料(写真版のコピー)を読み進め、史料の読解力を高める。また、史料の現物に接する機会も設ける。 | 史料の読解力を高めるとともに、史料が書かれた時代についての理解を深めること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 近世史料実習4 | | 実習 | 2 | 1 | 近世文書(写真版のコピー)を読み進めるとともに、古文書の取り扱い法・整理の考え方、目録の作成、写真の撮影法などを学ぶ。 | 古文書読解力を高めるとともに、具体的な古文書の調査・整理方法について理解すること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 近世史料実習5 | | 実習 | 3 | 1 | 近世を中心とした史料の整理作業と一緒に進め、最終的に報告書を作成するために、作成した目録を入力してもらう。 | 実践的な作業を通して、近世史料のあり方についての理解をいっそう深めるとともに、その取り扱い能力を育成し、高めること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 歴史学実習 | | 実習 | 3 | 1 | 事前に学習会を行ったうえで、近隣の史料館などへ行き、古文書の調査・整理・保存・公開の実際のあり方について実習する。 | 古文書を取り扱える能力を高めるとともに、古文書の調査・整理・保存・公開のあり方についての理解を深めること。 | | ◎ | ◎ | | | | | |
| 日本古代中世史演習1 | | 演習 | 3 | 2 | 日本古代中世の様々な課題を解説するとともに、受講生各自が古代中世に関するテーマを出し、研究史を整理するとともに関係史料に当り、それに基づいて研究発表をする。 | 独自にテーマを設定し、その分野の研究成果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立てることにある。 | | | ◎ | ◎ | | | | |
| 日本古代中世史演習2 | | 演習 | 3 | 2 | 日本古代中世の様々な課題を解説するとともに、受講生各自が古代中世に関するテーマを出し、研究史を整理するとともに関係史料に当り、それに基づいて研究発表をする。 | 独自にテーマを設定し、その分野の研究成果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立てることにある。 | | | ◎ | ◎ | | | | |
| 日本近世史演習1 | | 演習 | 3 | 2 | 受講生それぞれが、課題とするテーマの研究成果を取りまとめ、主要な史料を提示しつつ報告する。あわせてその内容をめぐって討論を行う。 | 日本近世史に関する研究史に学び、史料を収集し分析して、研究成果をまとめること。 | | | ◎ | ◎ | | | | |
| 日本近世史演習2 | | 演習 | 3 | 2 | 受講生それぞれが、課題とするテーマの研究成果を取りまとめ、主要な史料を提示しつつ報告する。あわせてその内容をめぐって討論を行う。 | 日本近世史に関する研究史に学び、史料を収集し分析して、研究成果をまとめること。 | | | ◎ | ◎ | | | | |
| 日本近代史演習1 | | 演習 | 3 | 2 | 『日本近代思想体系』の中から各自が取り組みたいテーマと史料を選び、研究史をふまえ、史料を読解して報告する。 | 日本近代史に関する研究史を学び、史料を収集・分析して、研究成果をまとめること。 | | | ◎ | ◎ | | | | |
| 日本近代史演習2 | | 演習 | 3 | 2 | 『日本近代思想体系』の中から各自が取り組みたいテーマと史料を選び、研究史をふまえ、史料を読解して報告する。 | 日本近代史に関する研究史を学び、史料を収集・分析して、研究成果をまとめること。 | | | ◎ | ◎ | | | | |
| 東洋近世史演習1 | | 演習 | 3 | 2 | 東洋近世史の分野で各人が特定の問題の一つを選び、その問題について扱った文献を読み、まとめて報告する。報告の後に、それぞれの問題に関係する史料を全員で会談する。 | 東洋史に関する特定の問題について調べ、まとめて報告し、検討することができること。 | | | ◎ | ◎ | | | | |
| 東洋近世史演習2 | | 演習 | 3 | 2 | 東洋近世史の分野で各人が特定の問題の一つを選び、その問題について扱った文献を読み、まとめて報告する。報告の後に、それぞれの問題に関係する史料を全員で会談する。 | 東洋史に関する特定の問題について調べ、まとめて報告し、検討することができること。 | | | ◎ | ◎ | | | | |
| 西洋近代史演習1 | | 演習 | 3 | 2 | 各受講生の問題意識から必要な洋文献が選択し、その検討を行う。また日本での研究動向を認識するのに必要不可欠な和文献に基づき、各自が発表を行ない、それに基づいて討論する。 | 各自のテーマに基づく洋文献を検討し、研究史作成に必要な不可欠な和文献を広く収集・検討し、それに基づいた発表を行うこと。 | | | ◎ | ◎ | | | | |
| 西洋近代史演習2 | | 演習 | 3 | 2 | 各受講生の問題意識から必要な洋文献が選択し、その検討を行う。また日本での研究動向を認識するのに必要不可欠な和文献に基づき、各自が発表を行ない、それに基づいて討論する。 | 各自のテーマに基づく洋文献を検討し、研究史作成に必要な不可欠な和文献を広く収集・検討し、それに基づいた発表を行うこと。 | | | ◎ | ◎ | | | | |
| 卒業論文演習1 | | 演習 | 4 | 2 | 学年末の卒業論文提出に向けて、その進捗状況を随時検討する。6月と9月に中間発表会を開くので、これを当面の目標として準備を進めていく。 | 卒業論文作成に向けて準備を整え、中間発表を行なうこと。 | | | ◎ | ◎ | | | | |
| 卒業論文演習2 | | 演習 | 4 | 2 | 卒論完成に向けた進捗状況の報告と、その検討を行なう。執筆前の最終的な構成と、最初の草稿完成の段階で、特に集中的に内容検討を行なう。 | 卒業論文を作成し、提出すること。 | | | ◎ | ◎ | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|------------|---|------|----|--|---|---|---|---|---|---|
| ディプロマ・ポリシー | 歴史学専攻では、以下の能力を身につけた人材を養成します。まず歴史学に関する知識を背景に、自らの属する社会の成り立ちを理解する力をもつとともに、異文化に対する洞察力をもつこと。これによって、現代日本に生きる者としてのアイデンティティを構築することができます。次に、史料を調査・読解して知識を獲得し、それに基づいて論理的に思考すること(思考力)、思考を言語化して正確に伝え、討論を通して議論を発展させること(コミュニケーション能力)、解決すべき課題を自ら打ち立てること(構想力)、自分の知識と主張を他人に理解できるように構成・提示して発信すること(表現力)。これらは、社会の中で主体的に生きていくための基礎となります。さらに、歴史教育や文化財保護などに携わることのできる専門的な技能を獲得すること。これによって、専門的な分野で社会に貢献することが可能になります。これらの能力を身につけた人に学士(歴史学)を授与します。 | | | | ①論理的に思考する力 ②歴史学に関する基礎と応用の知識 ③調査・収集・分析・理解する力 ④構想・表現・伝達する力 ⑤アイデンティティを構築し、社会に貢献する力 | | | | | |
| 科目名 | 授業形態 | 配当年次 | 単位 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要 | | | | |
| 卒業論文 | | 4 | 6 | 担当教員の指導の下に、在学中の学習・研究の成果を総合的にまとめ、卒業論文を作成する。完成した論文に対して、口頭試問を行なう。 | 研究課題を設定し、自ら文献・史料を調査・分析・検討して、自分なりの答えを出すことができること。さらにそれを論理的な文章で表現し、社会に公表することができること。 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |